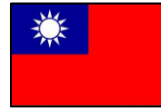


「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Fudan High School Junior High School Division



安芸高田市立美土里中学校

交流の概要

学年：第1～3学年

単元名：第1学年 Stage Activity 1 “All about Me” Poster
第2学年 Stage Activity 1 “My Favorite Japanese Food”
第3学年 Stage Activity 1 “Discover Japan”
(NEW HORIZON English Course 1・2・3)

ねらい：英語を使って主体的にコミュニケーションを図ることができる。

グループごとに交流しています！



「どう言ったらいい？」「〇〇がい
いんじゃない？」と助け合いながら、
何とか伝えようとしています！



活動内容：

①挨拶・授業の流れの確認（全体）

互いの国の母語で簡単な挨拶を行い、各グループのメンバーを確認した。その後、グループでの交流につながるように、教師と生徒でやり取りを行い授業をスタートした。

②自己紹介（グループ）【交流1回目】

8グループに分かれ、自己紹介（名前、ニックネーム、好きなもの、部活動など）を行った。事前にGoogle Classroom上で互いに共有した自己紹介カードを各自の端末で参照しながら、お気に入りのアニメや芸能人などを紹介した。その後、自己紹介の内容について、質問し合ったり、互いの言語を教え合ったりしていた。

③学校・文化紹介（グループ）【交流2回目】

交流1回目とは異なるグループに分かれ、両国の学校や文化について交流した。2回目はShow & Tellのように一方的な発表にならないよう、クイズ形式で紹介した。クイズに答えながら、互いの文化についての理解を深めた。

④振り返り（全体）

両国の生徒代表が感想を述べたり、グループごとに写真を撮り、クラウド上で共有したりした。最後は全員で各国の母語で挨拶を行った。

≪接続方法：Google Meet≫

大切にしたこと

- ・全校生徒が一斉にオンライン授業を2回できるように設定し、各授業とも生徒一人一人が話す機会を増やせるように、小グループでの交流を取り入れた。
- ・単元のパフォーマンステストと関連付けて、生徒が学んだことが生かせるようなトピックを題材として取り上げ交流授業を展開した。
- ・生徒が自分の意見について簡単な英語で伝えられるように、常活動等で様々なトピックや場面を設定し、活動に取り組むことができるようにした。
- ・事前学習では、交流中に困ったことが起きた場合などにどう対応すべきかを考えさせ、スライドやメモを準備させた。

交流を終えて

生徒の声

- ・伝わらないことがあっても、どうしたら伝わるかを考えて工夫して話したら、何とか会話を続けることができて嬉しかった。
- ・台湾の中学生が、こちらの紹介や質問にとってもいい反応をしてくれたので、楽しく自己紹介ができた。
- ・台湾の人の発音が良くて、ビックリした。発音良くスラスラ言えるようにしていきたい！
- ・緊張したけれど、交流の最後に「今日は楽しかったです。また会いたいです。」と言ってくれてとても嬉しかった。これからも交流を続けていきたい。

先生の声

- ・「伝わらない時はどうするか」「会話が続けるように、こんな質問をしてみよう！」など、既習事項を振り返り、相手意識を持って伝える工夫をしていた。
- ・英語が苦手な生徒も、“Tell me more.” “One more, please!” “Could you …?” など、やり取りを続けるために必要な表現を何度も声に出して練習している姿があった。
- ・交流時は、うまく話せずに沈黙していた生徒もいたが、グループの仲間と協力して会話を続けようとしていた。普段、なかなか経験できないリアルタイムのやり取りを他国の同年代の生徒と行うことができ、大変有意義な活動となった。